

TAKEHISA YUMEJI MUSEUM

夢二が見つめた1920年代

震災からモダンガールの表現まで



①化粧の秋 1924年(大正13)

木版画や写真を豪華に盛り込み、流行を伝えた雑誌『婦人グラフ』を夢二はモダンな美人画で飾りました。

2023.7.1 Sat >> 9.24 Sun

竹久夢二美術館

ごあいさつ

大正から昭和へ元号が変わる 1920 年代は、日本の近代化が急速に進みました。

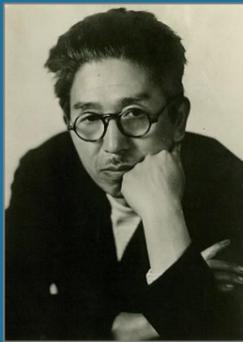
竹久夢二(1884-1934)は、独特の夢二式美人画で大衆を魅了する一方、過渡期にあった時代と社会を鋭く見つめ、創作活動に反映しました。

本展では、1923 年に発生し自身も被災者となった、関東大震災にまつわるスケッチとエッセイをはじめ、1924 年創刊の雑誌『婦人グラフ』で描き表したモダンガールを中心に紹介、さらに商業デザインにみるアールデコの表現にも注目し、1920 年代に夢二が手掛けた作品を幅広く展示します。

あわせて当時 40 代だった夢二の恋愛模様やライフスタイルを、約 100 年前の文化とともに振り返ります。

竹久夢二 TAKEHISA YUMEJI

明治 17 年 - 昭和 9 年 (1884-1934)



岡山県出身の画家・詩人。本名・茂次郎(もじろう)。雑誌投稿から明治 38 年(1905)末にデビューした。コマ絵や挿絵を数多く描き、センチメンタルな夢二式美人画を生み出した。画壇に属さず、日本画・水彩・木版画等で日本の郷愁と西欧のモダニズムを自在に表現した。また、詩や童謡も創作し、グラフィック・デザイナーの先駆けとしても活躍した。

広報図版紹介



②『童謡 凧』のための図案
1926 年(大正 15)頃

1920 年代は子供の為に芸術性を重視したたくさんの童謡と童話が創作され、夢二も数多く著書等で発表しました。



⑤人形と娘
1923 年(大正 12)

夢二は被災した東京をスケッチして回り、変わり果てた風景や人々の生活の様子を新聞や雑誌に発表しました。



③涼しき装い
1925 年(大正 14)

洋装で涼を取るモダンガールがアールデコ風に描かれています。百貨店「三越」の広報誌に掲載されたイラストです。



⑥湖畔の秋
1927 年(昭和 2)

女性の洋装は震災後から昭和初期にかけて徐々に広まりました。夢二は和装と洋装の取り合わせを好んで描き表しました。



④『キネマ』9月号 表紙
1924 年(大正 13)

明治後期に伝わったキネマ(映画)は、大正から昭和にかけて大衆化され、興業街の浅草六区を中心に活動写真館が立ち並びました。



⑦『fruit』6月号表紙図案
1929 年(昭和 4)

図案と文字が絶妙なバランスで配置された「銀座千疋屋」のための図案は、都会的で洗練された果物店のイメージを表現しています。



⑧柳美人
大正中～後期

女性を描いた作品には夢二自身の恋愛経験が反映されることも多く、1920 年代前半に同棲したモデル・お葉も画業に深く関わりました。

広報図版をご使用希望の場合は「画像使用申込書」に必要事項を記載の上、FAX またはメールで当館にお送りください。

展示の見どころ

1. 関東大震災を題材とした作品から夢二の社会派な一面をクローズアップ
2. 商業美術の先駆けにもなったモダン&ハイカラデザインを厳選
3. 夢二の 1920 年代のライフスタイルを夢二作品とともに紹介

◆デザインと商業美術
モダン店舗/浴衣図案
書籍装幀/雑誌表紙のアールデコ風表現
1920年代楽譜表紙絵

◆少女の心をつつす抒情画
夢二・高島華宵・露谷虹児・須藤しげる
砂川星路・久富矢須枝

◆モダンガールの時代と街
カフェー/キネマ
夢二が描いたモダンガール
社会進出した女性(職業婦人)
雑誌に見るモダンガール像(パネル展示)
雑誌広告コーナー(パネル展示)
モカ&モボ集合/ロングセラ商品

◆仕事も恋も! 夢二の1920年代
婦人グラフを飾るモダン女性像
おしゃれ情報発信(婦人グラフ誌面公開)
夢二作品を彩る女性達彦乃・お葉・順子
白蓮事件と夢二の恋愛観

◆子供たちによせて
夢二の本と雑誌
震災と子供たち
日本画に表現された子供の世界

◆関東大震災と夢二
被災地・東京を描く
「東京災難画信」に見る人々の心
復興へ向けて

展示構成

9/1 は

- ✓ 1923 年の関東大震災発生より 100 年
- ✓ 89 回目の竹久夢二の命日です

☆会期中に夢二の誕生日(9/16)を含みます

展覧会概要

展覧会名称

夢二が見つめた 1920 年代
— 震災からモダンガールの表現まで —

主催及び会場

竹久夢二美術館

住所

〒113-0032 東京都文京区弥生 2-4-2

TEL

03-5689-0462

会期

2023 (令和5) 年 7 月 1 日(土) ~ 9 月 24 日(日)

休館日

月曜日

※ただし 7/17、9/18 は開館し、
7/18、9/19 休館。

開館時間

午前 10 時 ~ 午後 5 時

(入館は 4 時半までをお願いします)

入館料

一般 1000円 大・高生 900円
中・小生 500円

※弥生美術館と二館併せてご覧頂けます。

交通

東京メトロ千代田線〈根津駅〉及び
南北線〈東大前駅〉よりいずれも徒歩 7 分
JR 上野駅 公園口より徒歩 20 分



ホームページ

<https://www.yayoi-yumeji-museum.jp>

担当学芸員による
ギャラリートーク開催

7/15(土)・8/19(土)・9/16(土) 午後 2 時



⑨ 展覧会チラシ

ハットケーキ(ホットケーキ)

巴的炭希

夢二カフェ 港や
展覧会
特別メニュー



ホットケーキは 1923 年の関東大震災の後、デパートの食堂に登場し、昭和にかけて家庭に広まりました。オレンジをさかせた「港や」オリジナルレシピで焼き上げ、蜂蜜やアイスとともに展覧会期間限定でご提供します。

竹久夢二美術館

平成 2 年(1990)開館。都内で夢二作品を鑑賞できる唯一の美術館です。館が建つ東京・本郷は、夢二が滞在した「菊富士ホテル」がかつてあり、また最愛の女性、笠井彦乃と逢瀬を重ねた場所で、今なお昔の風情を留めて静けさと木々の緑に包まれています。

当館では約 3300 点の所蔵作品より、年 4 回様々なテーマで企画展示を実施しています。



展覧会についてのお問い合わせは

竹久夢二美術館 学芸員 徳重美佳

までお願いいたします。

tel 03-5689-0462 fax 03-3812-0699

FAX 03-3812-0699

竹久夢二美術館 徳重 行

夢二が見つめた 1920 年代

— 震災からモダンガールの表現まで —

画像使用申込書

画像送付日 月 日 必着

掲載紙（誌）／番組名	
発売／放送予定日	
所属・ご担当者名	
ご住所 〒	
TEL	FAX
メールアドレス	

ご希望の図版番号に○をしてください。

図版番号（プレスリリースをご参照ください）								
1	2	3	4	5	6	7	8	9

読者プレゼント招待券（5組10名）	希望する	希望しない
-------------------	------	-------

通信欄

画像データの提供について

同封のプレスリリースに掲載の図版について、メールで画像データをお送りいたします。

ご希望の場合は、この申込用紙に必要事項をご記入の上、FAX 03-3812-0699 までお送りください。また美術館写真（外観／展示室）等を必要とされる場合はご一報ください。

読者プレゼント用招待券のご提供について

読者プレゼント用にご招待券（5組10名様分）をご用意いたします。この用紙にてお申し込みください。

掲載紙（誌）ご送付のお願い

本展に関する記事をご掲載いただきました際には、お手数ですが掲載誌（紙）をお送りくださいますようお願い申し上げます。 〒113-0032 東京都文京区弥生2-4-2 竹久夢二美術館 担当 徳重宛